

新型コロナウイルスの影響によって、 学生の就職活動はどのように変化しているのか？

就職みらい研究所
研究員 清水山 隆洋

1 新型コロナウイルス感染拡大を受け、学生の 説明会・面接参加はどのように変化したか？

2021年卒学生の就職活動のトピックは、就職活動のWeb化が急速に進んでいることであろう。2020年初頭から始まった新型コロナウイルスの感染拡大、2020年4月の政府による緊急事態宣言を受け、学生の就職活動はどのような影響を受け、どのように変化しようとしているのか？ 6月下旬時点で確認できるデータをもとに見ていきたい。

就職みらい研究所では、2020年4月28日～2020年5月8日に、就職情報サイト『リクナビ2021』登録学生を対象に、学生の就職活動の実態を調査した（回答者5,887名。うち大学生4,769名、大学院生1,118名）。調査では、個別企業説明会および面接について、学生の対面・Webそれぞれの参加社数を聞いている。参加時期は「2020年2月以前」「2020

年3月前半」「2020年3月後半」「2020年4月前半」「2020年4月後半」とし、それぞれの期間の参加社数を実数で聞いている。

下図(図表①)に、各期間の参加社数の推移を示す。個別企業説明会については、2020年2月以前は合計のうち83.4%が対面参加であったが、2020年3月前半には合計のうち55.8%がWeb参加となり、2020年3月後半には合計のうち64.5%がWeb参加になった。面接については、2020年3月前半まで対面参加が大半であったが、2020年3月後半にはWeb参加が合計のうち56.7%と過半数になった。個別企業説明会・面接とも、緊急事態宣言が発出される以前の3月中には、Web参加が主体になっていたことがわかる。

図表① 個別企業の説明会・面接選考の平均参加社数(時期別)

	説明会			面接		
	対面	Web	合計	対面	Web	合計
2020年2月以前	3.37	0.67	4.04	1.06	0.17	1.23
2020年3月前半 (3月1日～3月15日)	1.83	2.31	4.14	0.64	0.37	1.01
2020年3月後半 (3月16日～3月31日)	1.21	2.20	3.41	0.58	0.76	1.34
2020年4月前半 (4月1日～4月15日)	0.36	1.43	1.79	0.24	1.12	1.36
2020年4月後半 (4月16日～4月30日)	0.14	0.79	0.93	0.09	0.81	0.90

※就職活動経験者のうち、各活動実施者/実数回答の平均値

また下図(図表②)に、新型コロナウイルスの影響により中止・延期となった活動を示す。就職活動経験者において、就職活動開始時に対面での個別企業説明会・対面での面接に参加予定だった割合(左表)は、両者ともに62.5%だった。それらの参加予定者を100として、中止・延期となった、対面での個別企業説明会・対面での面接があった割合を示している(右表)。対面での個別企業説明会については、当初参加予定者のうち、75.0%が新型コロナウイルスの影響を受けて中止となった活動があり、37.0%が延期となった活動があると回答している。対面での面接については、当初参加予定だった学生のうち48.2%が中止となった活動があり、57.0%が延期となった活動があると回答している。

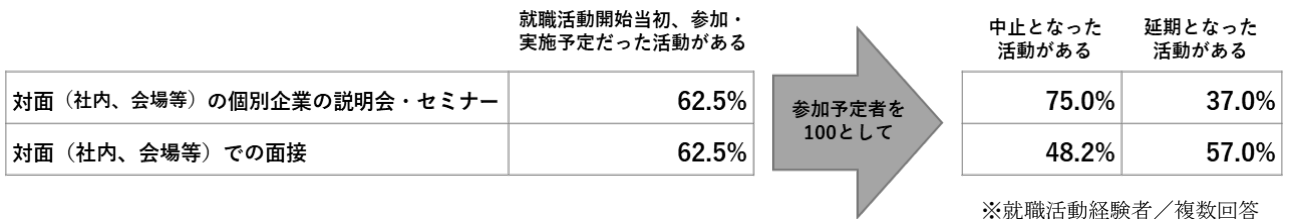
以上のことから2021年卒学生においては、新型コロナウイルスの影響が出始めた2020年3月中(緊急事態宣言前)には、Webを主体とした就職活動に

移行しており、そのなかでも個別企業説明会については、企業から対面での開催中止・Web開催への変更が比較的速やかに伝えられていたものと考えられる。ただし面接については、Web面接の機会があった一方で、対面面接参加予定者の約6割が延期となっており、実施再開を待たされていた企業の選考も多かったものと考えられる。

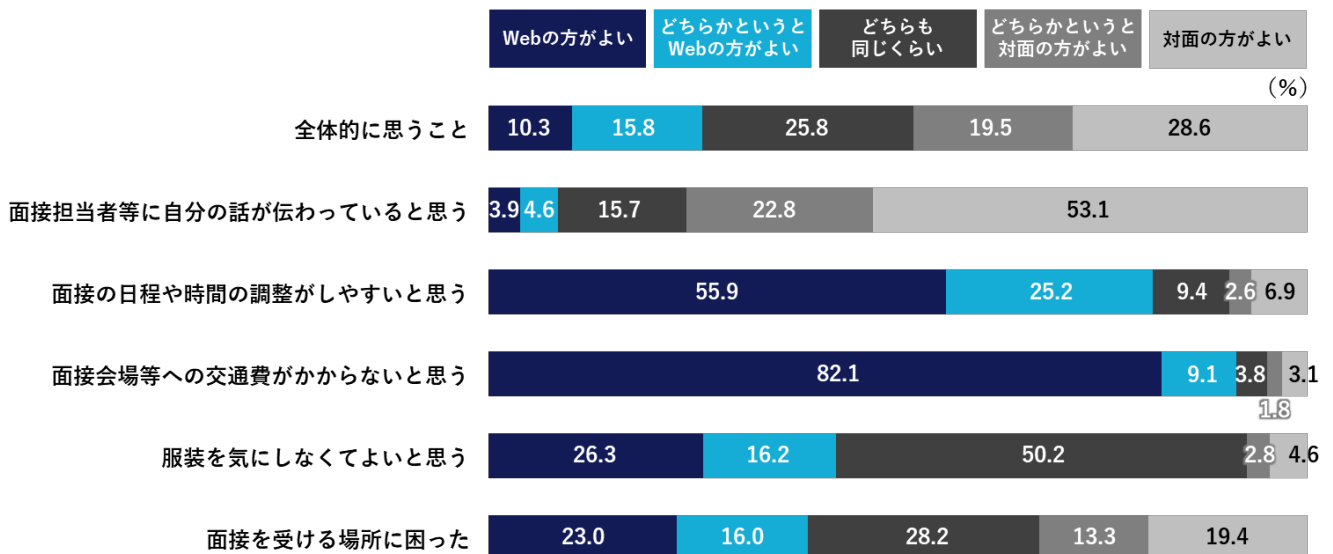
2 学生はWeb面接をどのように受け止めていたのか？

調査では、Web面接を受けた印象についても聞いた。アンケート回答時までに対面・Webいずれの面接も受けたことがある学生を対象に、6項目について、「Webの方がよい」「どちらかというWebの方がよい」「どちらかという対面の方がよい」「対面の方がよい」(5件法)で聞いた。下図(図表③)にその回答結果を示す。

図表②新型コロナウイルスの影響で、中止または延期となった活動の有無



図表③Webおよび対面での面接を受けて思うこと



Webの方がよいとの回答(「Webの方がよい」「どちらかというWebの方がよい」)の計。以下同様)が多かったのは、「面接会場等への交通費がかからないと思う」で91.2%、「面接の日程や時間の調整がしやすいと思う」の81.1%である。対面の方がよいとの回答(「対面の方がよい」「どちらかという対面の方がよい」)の計。以下同様)が多かったのは、「面接担当者等に自分の話が伝わっていると思う」で75.9%であった。なお、「服装を気にしなくてよいと思う」について、42.5%の学生がWebの方がよいとか回答しているものの、「どちらも同じくらい」との回答が50.2%と過半数を占めた。また、「面接を受ける場所に困った」については、39.0%の学生がWebの方がよいと回答しているが、32.7%の学生は対面の方がよいと回答し、28.2%の学生は「どちらも同じくらい」と回答しており分散が見られる。学生はWeb面接について、日程調整や交通費の負担が少ないことを肯定的に受け止めている一方、自分の話は対面での面接の方が伝わりやすいと思っているようである。

Webと対面について「全体的に思うこと」は、Webの方がよいは26.1%で、対面の方がよいは48.1%と、全体的な印象としては対面の方がよいと受け止めていた学生が多かった。なお、「どちらも同じくらい」は25.8%であった。

3 新型コロナウイルスの影響によって、学生の就職活動はどのように変化していくのか？

ここまでをまとめると、学生は個別企業説明会については、新型コロナウイルスの影響が出始めた3月中(緊急事態宣言前)には、企業から対面での開催中止・Web開催への変更が伝えられていた。面接については、Web参加できた企業の選考もあった一方で、対面での実施再開を待たされていた企業の選考も多かった。学生のWeb面接の受け止め方は、「日程調整や交通費の負担が少ないのはよいが、企業に自分の話を伝えられるか不安」と集約

できそうだ。調査時点では、Web面接よりも対面での面接の方がよいと思っている学生が多かった。2021年卒学生の就職支援の課題は、予定していた面接が受けられなかった学生へのフォローアップ。もう一つは、Web上での学生と企業のコミュニケーションの深化ではないだろうか。

本稿執筆の6月時点では、緊急事態宣言は解除され新型コロナウイルス感染拡大は収束しつつあるようにも見えるが、複数の大手企業が面接の完全Web化を図る等、採用選考のWeb化は進展している。しかし調査時点において、多くの学生はWeb面接に対して、自分の話が企業に伝えられるかといった、コミュニケーションの不安を感じている。企業の採用選考のWeb化は、学生にとって、日程や費用に制約されずに企業との接点を得られる機会になる。企業も、これまで接触できなかった地域の学生との接点を得ることが期待できるだろう。学生のコミュニケーションへの不安が解消されれば、就職活動(企業にとっては採用活動)のWeb化は、学生・企業双方にメリットがあるはずだ。

本稿の最後に、Web選考を通じて志望意欲が上がった学生の事例に触れる。Web選考を通じて志望意欲が上がった企業があると回答した内定取得学生に、理由を自由回答にて聞くと、「面接の都度自己PRのどこがよかったか、こんな仕事をしてほしい等を返してくれたので、振り返りができた」「内定通知に添えられていた書類に、自分のどんなところを評価し、何を期待しているかまとめてくれた」「企業の方がタブレットを持って工場を回ってくれたので、職場の様子がよくわかった」などが見られた。

共通するのは、企業が学生をどのように理解したか伝えようとする姿・仕事を理解してもらおうとする姿である。学生から見れば、自分の話したことが企業に伝わっていると実感できた姿、企業から仕事理解のための情報が得られたと実感できた姿である。「Withコロナ」の採用活動・就職活動においても、コミュニケーションの重要性は変わらないのである。